

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 第五福竜丸平和協会
(財) 第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

この文を書いている時(二月二十三日)、もう数日であつた三月一日、ビキニ事件の記念日が来るなと思いを深くしている。あの恐ろしさは、何回くりかえし訴えても尽きない。広島・長崎の原子爆弾の何百倍か何千倍も恐ろしい被害をこの水爆はひろげるといふ。このビキニ事件こそ人類に大きな警鐘をならすものである。

大きな思い違い

「ではこの両市で何人が犠牲となり死んだでしょうか。何百人ですか、何千人ですか、何万人ですか。」
そう言つて、それぞれに手をあげてもらつた。学生たちは皆考えたこともない質問に当惑し、彼ら相互に相談を始めたかと思ふが、一番多い解答は、「あれだけ大きい爆弾だつたら、何

柴田 徳 衛

人よりは多かるう。数千人かしら」であつた。
読者はこれを知り烈火のごとく怒るだらうし、ごく最近では違つてきたらうが、当時はそうである。どうしてそんな思い違いが起つたか。米国の一般市民は、原子爆弾という、すぐあの航空機から投下され爆発した雲を思ひ出すのだ。あらゆるニュース、記事はそれだから。その雲の下で何が起つたか、いわんやその被害で何十年後にまでも次々と死者の出ていること等まったく伝えられていない。他方日本にいる私たちは、あの広島・長崎の地獄図を思い出す。
同じ「原子爆弾」という言葉でも、そこで思ふこと、理解することが国が違つてくるのである。三・一ビキニ事件の当時、私は米国にいた。接するあらゆる人に、この被害の大変さを訴えた。ところが、当時日本で大騒ぎとなつた事件の大変さが、先方に全く伝わらない。ニュースはすべて、辞引通りに、「まぐる」を「ツナ」と訳して伝えている。米国人にとつて

「核のおそろしさ」に焦点

三月一日、東京の文京区民センターで、協会主催の「三・一ビキニ事件記念集会」が開かれました。「死の灰」から三九周年、いま核開発競争のつめあとは、想像を絶する被害の実態を世界各地に明らかにしてあり、その一つ一つを人類の生存、被害者の立場でまじく告発し、核兵器廃絶の緊急性を一層明らかにしていくことを迫っています。



3・1ビキニ事件記念集会

川崎昭一郎会長は主催者あいさつで、来るビキニ事件四〇年にむけ、事件の本質と教訓を新しい世

代に伝えていく平和教育の必要性を強調しました。
集会では、理論物理学者で、山梨大学前学長の小出昭一郎氏が「核のおそろしさ」と題し、およそ一時間、記念講演を行いました。小出氏は、目に見えず人間の五感に感じられない放射線の持つ真のおそろしさを当初科学者は予見できなかった。次第に明らかになってきたとき、世界には深刻な事態が招かれていた。安全の基準はゼロ以外にない、と放射線の諸問題を歴史的に、また、現在の視点に立ち、科学的に話され感銘を与えました。質疑の時間には放射線測定、被害との関係について、岡野眞治、小川岩雄氏ら出席の科学者、大阪の竹花義郎医師からも質問にたいする解説が次々にだされ、「せいたくなく教室みたいだ」との参加者の声もでるほど活発でした。つづいて、「生活者とエネルギー」と題して記念講演を行った日本経済新聞編集委員の藤原房子氏は、生活者の立場にたつて、原発を含むエネルギー問題を考え、解決していく方途について述べ、「豊かさ」についてもと根元的なところから洞察されねばならない、と

来館者二百万名に

三・一ビキニデーを前に、NHK首都圏ニュース、テレビ東京、日本テレビが相次いでビキニ事件を振り返り、第五福竜丸展示館を紹介しました。NHKの放送直後「展示館にはどういったらいいの」など三〇通近い電話が入るなど反響があり、テレビ東京のニュースは短時間でしたが、小学校の社会科見学の様子が印象的でした。日本テレビは同局の人気番組「おもしろいテレビ」の今日の写真館という特集で、一日、当時のニュースフィルム、映画「第五福竜丸」の場面を使ってビキニ事件を再現、

小笠原英三郎氏逝去

協会顧問、静岡大学名誉教授、教育学者、小笠原英三郎氏が二月十五日死去されました。八十歳。静岡県の第五福竜丸保存委員会のよびかけ人、協会発足以来の評議

久保山さんの生前の声、久保山さんに寄せた絵日記、「死の灰」も紹介、大石又七さんが厳しい表情で事件から三九年の現実を語り、展示館の様子も紹介されました。
来館者の熱心な見学が相次ぎ、桐朋中学校三年生およそ二百名は、三日間六組に分かれて見学、いままなお放射線を出し続ける「死の灰」に目をこらし身体一杯で放射線の恐怖を受け止めました。長崎市役所従業員組合、三崎地区労働組合には第五福竜丸の展示パネルが貸し出され、三崎市役所では当時の被災船の実状、漁民・市民の被害状況が資料で展示されました。
近県の高校生の来館も盛んで、世田谷区の駒沢高校には船の模型も展示され、同区の調布高校は大石さんを含んで展示館で「歴史教室」を持ちました。静岡県青年団協議会のピースツアーもおこなわれ、二月の来館者は八〇校、二万二千名余。三月四日、開館以来の来館者が二百万名をこえました。

員として、第五福竜丸保存に力を尽くされました。
「原水爆許すまじ、分裂許すまじ」の「静岡の心」を信条に、原水爆禁止運動とその統一のため献身されました。

平和教育で平和な世界を 創造できるか ③

藤田 秀雄

これまで、わたしは、平和教育は、平和に関する教育ではなく、平和のために何らかの事をすすんで行動する人をそだてるのでなければならぬと、わたくしは、平和教育の目標は、平和創造の主体形成であると主張している。

世界では、子どもたちが、平和のために行動している事例が数多くある。最近の例では、旧ユーゴ内戦による虐殺、イスラム女性へのレイプに対し、フランス・スウェーデン・オーストリアの子どもたちを含む五〇万人の人たちが、この問題解決のために集まった国連代表に、戦闘・虐殺・レイプをやめよという手紙を書いたと伝えられている(『ザ・ヨーロッパ』一月二八日号—日本のマスコミでは、こういうことは、ほとんど伝えられない)。

日本では、子どもは、政治問題について判断する力はなく、また

判断すべきでないという考えが、教育関係者のあいだに根深くある。しかし、他方では、小・中学生にエイズ教育をしている。子どもにとつて、戦争・虐殺よりも、エイズの方が理解しやすいのである。エイズ教育では、学習を行動に結びつけようとしている。政治問題では、なぜ知識の伝達だけにとどめようとするのであろうか。さらに、日本の小中高校では、相変わらず、いじめや教師による体罰が横行している。これらが、子どもを死に至らしめる例もある。いじめは、前号でのべた日本の教育構造のなかで、子どもたちが、「あてのない欲求不満」(大田堯氏の指摘)におちいっていることが原因になっている。

極端な偏差値競争、いじめ・体罰の横行の状態を思うと、もはや学校が平和でないといわねばならない。学校が、ガルトング等のいう構造的暴力の場になっている。

こういう場で、いくら平和を語っても、子どもたちは、とまどいを感ずるだけであろう。平和教育は平和的な場で行かれないものであると考える。

かつては、平和は戦争のない状態と考えられてきた。一九六〇年代なかば以降、平和研究者は、一切の暴力(戦争や構造的暴力)のない状態が平和であると考えるようになった。これによって、平和は守るものではなく、創造すべきものとなった。

したがって、学校を平和的にするには、まず、学校から、直接的・間接的(精神的)暴力を、すべて追放することであろう。それが家庭でも必要なことはいまでもない。

子どもたちの間にも対立はある。ニュージラランドの平和教育では、小学生に、この対立(コンフリクト)を平和的に解決するにはどうしたらよいかを徹底して教える。(中・高校生には、今日の世界のコンフリクトの平和的解決方法を考えさせる。)小学生の頃からの、こういう平和のための基礎教育は不可欠であると思われる。そのために、日本の学校の状況を変え

なければならぬ。

教育内容については、すでに多くの人が指摘している。一五年戦争下の加害の事実を教えないとしたり、明治期からの朝鮮への侵略の歴史を教えないことで、どうして、アジアの人たちと理解しあえるであろうか。子どもたちに教えるまいとするところによって、一層、アジアの人たちの日本に対する疑惑は深まるばかりである。

教育内容について一言つけくわえれば、日本の学校の教育内容があまりにも欧米中心にかたよっているということがある。社会・外国語・音楽・絵画・歴史などほとんどすべての教科が、欧米中心で、アジアについてはあまり教えない。イスラムの世界については、ほとんど教えない。ヨーロッパ文化はイスラムの人たちが伝えた造船・天文・航海・数学・医学等の知識なしにはありえなかったにもかかわらず教えない。十字軍については、キリスト教徒の立場からの歴史を教える。こういう教育では、中東の戦争の公正な理解も不可能にさせる。

(立正大学教授)

本物を見た

桐朋小学校四年生
の作文集「げやき」
から

「第五福竜丸」 宮地麻衣

二月八日、中央防波堤埋め立て地の帰り、夢の島の第五福竜丸展示館に行った。第五福竜丸は木造の遠洋マグロ漁船で、アメリカの水爆実験で被災した船だ。本では読んだ事はあったけど、実物を見たのは初めてだった。すごく大きくて、けっこうポロポロだった。(うわあ、でっかい、これが水爆の死の灰を浴びた船か！)

と、思った。船の他、わん岸戦争で使ったトマホークや、いかり、無線機、ガラス玉、日めくりカレンダー、写真等、色々な物が展示してあった。第五福竜丸の他、八百五十六隻の船が被災していたのです。

(原爆でも、水爆でも日本ばかり被害を受けていくやしい)

と、思った。水爆は、日本の船だけじゃなく、罪もない島の原住民もそうです。自分の国で作ったんだから自分の国で実験すればいいと思った。どこの国がどれだけ実験をやったか表を見てみると、多くやった順で、米、ソ、仏、英、中、インドです。アメリカがだんとつに多かった。ほとんどは、砂漠や島でやっている。今、だんだん世界で核兵器を減らすようにしているけれど、イラク等はまだまだ沢山持っているから、そういうのが全部爆発したら、地球なんか一ぺんで吹き飛んでしまう。

水爆実験で被害を受けたのは、太平洋の島の住民、それから水産業界の人たち。福竜丸以外の船の乗組員で自殺をした人もいた。ピキニ海域が汚染され、そこにすむ魚やサング等が被害を受けた。症状は、第五福竜丸の乗組員に急性放射能症と診断され、吐き気、げり、頭髪がぬける、顔面がひどい火傷で黒くなる、頭や首にできもの、白血球が少なくなる、再生不良性貧血等。そして二十三人のうち三人は死んだ。米軍兵士は、グローブ症(手がグローブみたいにはれあがる)や、水腫で足を切断等。

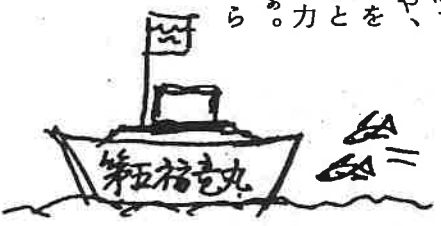
島の人は甲状腺による機能障害や、残留放射能による影きょうで、できもの、信じられないほどの死産・流産をくり返し、生まれたとしても、奇形や虚弱児等で、十才以下で死亡した幼児が異常におおいていわれる。

ウォッチェ環境では死の灰でなく「死の霧」がたちこめ、微量な放射能汚染にさらされた人々の中から今になって種々の病気や異常出産が伝えられるようになった。ピキニは現在は無人の地です。マーシャル諸島は核実験が終了した現在でも、核兵器の開発と核戦争準備のために使用され続けています。ピキニ海域の魚や漁をして働いている人たち、魚市場、魚屋等もはもすごく迷わくしただろうな、と思った。国民だって魚をほとんど食べられません。

(ひどいなあ。アメリカは。他の国の事なんか全然考えてないんじゃないかなあ。自分の国がそんな事されたらどんなだろう)と、思った。慰謝料は日本が請求してやるとアメリカは二百万ドル(七億二千万円)を支払うから、これをもって水爆実験によって生じた一切の損害に関する請求の最終的解決と

する、という事であった。(たったこれだけ? マーシャル諸島の人達にはどれ位損害ばい償をするんだらう)と、思った。慰謝料のうち、第五福竜丸乗組員に配分されたのは、合計して三千万円に満たなかった。残りの大部分は、カツオ・マグロ関係の水産業界に渡された。(もっと第五福竜丸の乗組員にあげればいいのに)と、思った。

最後に、(第七事代丸、第五福竜丸、はやぶさ丸として活やくした船は今、平和を呼びかける為、あおして展示館にあるんだなあ。原水爆署名運動をがんばったお母さんや、第五福竜丸を保存しようとした人達の力はすごいなあ。早く地球から核爆弾は一つもなくなり、世界が平和になる)と、思った。



文集のカットから